

2016 年度政治経済学 2 試験問題模範解答

以下の問題のすべてに答えよ。その際に、どこまでがどの問題の解答なのか、わかるように、**必ず解答用紙に解答番号を明記すること。**

[1]

交換における私的所有の成立のメカニズム（何故に成立するのか、どのように成立するのか）について、具体例を挙げて説明せよ。

ヒント：理論的に述べた上で、任意の交換を例にとり、具体的に述べること。

そもそも所有の要件としては、ただ“持っている”ということだけでは不十分であって、その“持っている”ということを社会が承認している（正当化している）ということが必要である。〔このような正当化はもちろん結局のところ、法律にまで発展しするのだが、しかし実定法が制定されるのは法律が保護すべき現実が既にあるからである。〕
〔例えば……この具体例はなくてもいい〕

〔市場社会は財貨・サービスの主要部分が市場において商品として交換されているような社会である。交換の前提である直接的生産において既に私的所有物が生産要素として使用されているのだが、しかし直接的生産の内部ではこのような正当化のメカニズムはない。これに対して、〕交換においては、互いに何らの暴力もなく自由意志で、かつ対等な条件で合意して、相手が欲するものと引き替えに自分が欲するものを入手する。従って、商品が交換されるということは、交換の当事者同士が形式的に自由・平等な私的所有者として承認しあうということを意味する。こうして、商品交換において、私的所有が必然的に発生しているのである。〔例えば、……具体例は省略〕

W (Why) (それがないと商品交換が成立しないから) : 4 点

H (How) (相互的承認によって) : 6 点

E 具体例 : 8 点

[2]

物と物件との違い、人間と人格との違い、物件と人格との関係について簡潔に説明した上で、人格からの物件運動の自立化を、資本運動一般に即して、かつ具体例を挙げて説明せよ。

ヒント：「資本運動一般に即して」というのは、「株式会社のような高度な形態に特有なものとしてではなく、最も単純な資本主義でも生じ得るものとして」ということである。具体例では高度な形態をイメージしてもいい。

人間は、自然的な存在として常に人間だが、社会を形成する主体としては人格になる。このような人格の対象は、単なる自然的な物から区別されて、物件と言う。〔例えば、……この具体例はなくてもいい〕

そもそも資本は資本家の私的所有物として物件、つまり所有物件である。しかし、

この資本という物件は、時には商品形態、時には貨幣形態、時には生産的な形態（労働力と生産手段）をとりながら、going concern として持続している。資本家という人格が別の資本家と言う人格に売却しても、あるいは資本家と言う人格が全従業員を解雇しても、相変わらず資本は物件的な運動主体として持続している。〔例えば、……具体例は省略〕これが資本運動一般に即しての人格からの物件的運動の自立化である。

P 人格・物件の説明：6 点

S 自立化（資本）：4 点

E 具体例：8 点

[3]

出資を容易にするという観点から、大規模公開株式会社の特徴を、合名会社との対比において、かつ具体例を挙げて説明せよ。

ヒント：単に法的・制度的な違いを述べるだけではなく、法的・制度的な位置付けの違いが出資者の経済的動機・見込・行動に及ぼす影響に即して違いを述べること。

合名会社では全出資者が無限責任を追う。これに対して、株式会社では全出資者が有限責任しか負わない。

ここから、大規模公開株式会社では、そもそも、出資者にとって株式保有のリスクが減少するから、大量の株式発行が可能である。しかも、出資者は多くの場合に会社を支配するためにではなく配当、そして特に転売益を得るために株式を保有するようになり、それを通じて株式流通が活発になり、こうしてますます大量の株式発行が可能になる。〔この段落の説明は他のものでも良い。ともあれ、社会の隅々から大量に資本を集中するという大規模株式会社の使命にマッチするような出資者の行動に関連して、具体例を挙げながら説明すること。〕従って、大規模公開株式会社は社会の隅々から広く資本を得ることができる。

C 説明：10 点

E 具体例：8 点

[4]

株式の集中・分散という観点から、株式会社の発展段階を、具体例を挙げて説明せよ。

ヒント：この場合の具体例というのは、現実に存在した／存在している会社の例でなくてもいい。要するに、株式会社の形態を理論的に述べた上で、その具体的内容を例示すること。

そもそも株式会社は社会の資本の集中によって経営規模の大規模化に対応するものである。ますます経営規模が大規模化するにつれて、株式の集中・分散の形態も発展してきた。

第一段階：個人への集中の段階。特定の個人大株主に株式が集中していた時代。多くの個人が株式を購入するということによって、大規模化に対応したが、まだ株主の人数は少なかった。〔例えば、……具体例は省略〕

第二段階：個人への分散の段階。ますます多くの個人が株式を購入することによって、さらなる大規模化に対応した。〔例えば、……具体例は省略〕

第三段階：組織への集中の段階。それ自体、資本が集中されている機関投資家・法人株主が株式を購入することによって、さらなる大規模化に対応した。〔例えば、……具体例は省略〕

C 説明：10 点

E 具体例：8 点